©海事プレス社2024 禁無断転載

Daily Cargo

実入りは3%減の1180万TEU

■国内主要8港・23年実績

国内主要8港（東京港、横浜港、清水港、名古屋港、大阪港、神戸港、北九州港、博多港）の2023年通年（1～12月）の実入り外貿コンテナ取扱量（速報値）は、前年比3.4%減の1180万TEUだった。世界的な景気減速で荷動きが鈍化し、8港の中では横浜港と博多港のみプラスとなった。また実入り・空コンテナを合わせた外貿コンテナ取扱量は、8港合計で3.1%減の1514万TEU。横浜港や名古屋港、北九州港、博多港で前年実績を上回った。

各港湾管理者が公表した港湾統計の速報値を基に本紙が23年実績をまとめた。8港合計の外貿コンテナ取扱量（実入り・空コンテナ合計）は、輸出が3.0%減の757万TEU、輸入が3.3%減の757万TEU。このうち実入り輸出は2.0%増の483万TEU、実入り輸入は6.8%減の697万TEUだった。

外貿コンテナ取扱量（実入り・空コンテナ合計）を港別に見ると、東京港は3年ぶりにマイナスに転じた。品目別（トンベース）では、コンテナ船以外の船舶やはしけで輸送された貨物を含む海上出入貨物で、輸出はその他化学工業品が9.9%減の175万トン、産業機械が9.9%減の177万トンと減少した。一方、再利用資材が18.2%増の137万トンと好調だった。輸入は衣服・身廻品・はきものが5.6%減の446万トン、電気機械が5.7%減の337万トン、製造食品が8.2%減の252万トンなどと低調だった。

一方、横浜港は外貿コンテナ取扱量で3年連続プラスを維持した。海上出入貨物のうちコンテナ貨物では、輸出で1位の自動車部品が6.7%減の411万トンと減少したものの、2位の完成自動車が約2.6倍の225万トンと急増した。3位の染料等化学工業品は4.1%減の197万トンだった。輸入は1位の製造食品が10.7%減の190万トン、2位の電気機械が1.6%減の189万トン、3位の衣服・身廻品・はきものが4.3%増の147万トンだった。

清水港の外貿コンテナ取扱量は2年連続で減少した。コンテナ貨物で、輸出は金属機械工業品が9.8%減の206万トン、軽工業品が15.3%減の43万トンなどと低調だった。輸入は軽工業品が16.3%減の48万トン、金属機械工業品が0.9%減の27万トンなどとなった。

主要港の2023年通年の外貿コンテナ取扱量　（TEU、%）

	合　計	前年比	輸　出	前年比	輸　入	前年比
東京港	4,082,476	▲7.9	1,898,681	▲7.5	2,183,795	▲8.2
横浜港	2,686,431	2.3	1,426,887	1.8	1,259,544	2.8
清水港	410,498	▲6.4	204,287	▲8.9	206,211	▲3.9
名古屋港	2,534,122	0.1	1,323,437	▲0.1	1,210,684	0.3
大阪港	1,981,372	▲7.0	919,381	▲6.7	1,061,990	▲7.2
神戸港	2,191,048	▲2.8	1,167,357	▲3.3	1,023,691	▲2.2
北九州港	422,436	1.9	214,011	1.6	208,425	2.1
博多港	832,091	3.7	418,187	4.3	413,904	3.1
8港合計	15,140,474	▲3.1	7,572,228	▲3.0	7,568,244	▲3.3

	実入り合計	前年比	実入り輸出	前年比	実入り輸入	前年比
東京港	3,032,390	▲6.5	902249	1.1	2,130,141	▲9.4
横浜港	2,156,443	1.2	1,052,816	9.0	1,103,627	▲5.2
清水港	351,170	▲8.8	161,909	▲10.6	189,261	▲7.1
名古屋港	2,122,839	▲1.5	1,043,930	2.50	1,078,909	▲5.1
大阪港	1,417,447	▲6.9	389,219	▲1.8	1,028,228	▲8.7
神戸港	1,800,472	▲3.6	908,928	▲1.4	891,544	▲5.7
北九州港	314,963	▲2.1	131,408	▲8.5	183,555	3.1
博多港	601,474	2.3	235,686	10.9	365,788	▲2.5
8港合計	11,797,198	▲3.4	4,826,145	2.0	6,971,053	▲6.8

名古屋港の外貿コンテナ取扱量は2年ぶりにプラスとなった。コンテナ貨物では、輸出で1位の自動車部品が6.2%減の797万トン、2位の完成自動車が2.5倍の279万トン、3位の産業機械が4.4%減の253万トンだった。輸入は1位の衣服・身廻品・はきものが5.1%減の268万トン、2位の自動車部品が10.1%増の217万トン、3位の電気機械が4.7%減の172万トンだった。

大阪港の外貿コンテナ取扱量は3年ぶりにマイナスだった。コンテナ貨物では、輸出で1位の染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品が12.1%減の101万トン、2位の産業機械が16.7%減の94万トン、3位の再利用資材が9.5%増の56万トンだった。輸入は1位の衣服・身廻品・はきものが6.0%減の390万トン、2位の電気機械が12.1%減の296万トン、3位の染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品が6.4%減の202万トンだった。

神戸港の外貿コンテナ取扱量も3年ぶりにマイナスに転じた。海上出入貨物の品目別では、輸出で産業機械が5.4%増の490万トンと好調だったものの、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品が9.0%減の283万トン、自動車部品が12.0%減の179万トンと減少した。輸入は衣服・身廻品・はきものが11.4%減の184万トンと低調だったが、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品は1.1%増の178万トンで堅調に推移した。

北九州港の外貿コンテナ取扱量は2年ぶりにプラスとなった。ただ実入り外貿コンテナ取扱量は前年実績を下回った。海上出入貨物の品目別では、輸出・輸入合計で金属機械工業品が4.6%減の459万トン、化学工業品が22.5%減の439万トンなどと低調だった。

博多港の外貿コンテナ取扱量は4年ぶりにプラスに転じた。海上出入貨物の品目別では、輸出で産業機械が16.2%減の42万トン、再利用資材が31.0%増の39万トン、自動車部品が0.3%増の32万トンだった。輸入は家具装備品が13.5%減の124万トン、衣服・身廻品・はきものが2.8%減の74万トン、電気機械が3.1%増の62万トンだった。